

「10・2」——^{せかいへいわ ひ}世界平和の日

^{どうにゅうぶ}導入部

10月2日は「世界平和の日」です。^{いけだせんせい はつ かいがいしどう しゅつぱつ}池田先生が初の海外指導へと出発したこの日は、^{こんにち}今日、世界192カ国・
^{ちいき ひろ}地域へと広がっているSGI（^{そうかがっかい}創価学会インタナショナル）の^{れんたい だいいっぽ}連帯への第一歩ともいべき日です。この「世
界平和の日」の^{いぎ}意義をともに^{まな}学んでいきましょう。

1枚目/^{はつ かいがいしどう}初の海外指導へ（8枚目の絵の裏に貼る）

^{しょうわ}昭和35（1960）年10月2日、^{す あきぞら ひろ}澄んだ秋空が広がるこの日、^{いけだせんせい}池田先生をはじめとする一行が^{いつこう ほねだ とうきょうこくさい}羽田の東京国際
^{くうこう}空港から、^{む たびだ}アメリカのハワイに向けて旅立ちました。^{だいさんだいかいちょうしゅうにん}第三代会長就任の日からわずか5カ月、^{おお かいいん}多くの会員に
^{みおく}見送られるなか、^{はつ かいがいしどう しゅつぱつ}初の海外指導へのお出発でした。

2枚目/^{あたら れきし}新しき歴史を、この^て手で（1枚目の絵の裏に貼る）

この^{とし}年の5月3日、^{そうかがっかい だいさんだいかいちょう しゅうにん}創価学会の第三代会長に就任した32歳の^{いけだせんせい むね}池田先生の胸には、「新しき歴史を、この手
で、^{だんこ ひら}断固、開くのだ」との^{けつゐ ほのお}決意の炎が燃え上がっていました。それは、^{せかい こうせんるふ}世界への広宣流布という^{みぞう たたか}未曾有の戦
いの^{かいし いみ}開始を意味するものでした。^{にちれんだいしゅうにん ごゆいめい}世界広宣流布は日蓮大聖人の御遺命であるとともに、^{だいにだいかいちょうと だじょうせい}第二代会長戸田城聖
^{せんせい たく しめい}先生から託された使命でもあったのです。

3枚目/^{おお おくもの}大きなカバンの贈り物（2枚目の絵の裏に貼る）

^{いけだせんせい だいさんだいかいちょう しゅうにん}池田先生が、第三代会長に就任したその日、^{いわ きねん しな おく}会長就任のお祝いとして、記念の品を贈ろうとする^{かね こふじん}香峯子夫人
に対し、^{たい おお じょうぶ りょこう きぼう}池田先生は大きくて丈夫な旅行カバンを希望しました。

「そんなに大きなカバンを持って、どこにお出かけになりますの」と問う^{かね こふじん}香峯子夫人に、^{いけだせんせい}池田先生は「世界を
まわるんだよ。^{と だせんせい か}戸田先生に代わって」と^{こた}答えました。（小説『^{しょうせつ しん にんげんかくめい だいいっかん きんしゅう}新・人間革命』第一巻「錦秋」の章）

^{かいちょうしゅうにん}会長就任のこの日、^{いけだせんせい こうせんるふ}池田先生の広宣流布への^{おも}思いは、^{にほん}日本のみならず、世界に向かっていたのでした。

4 枚目／師の声を胸に、世界へ（3枚目の絵の裏に貼る）

海外指導へと旅立つ池田先生の胸ポケットには、恩師・戸田先生の写真がありました。戸田先生は逝去の直前、池田先生（当時、青年室長）に対して次のように語っています。

「行きたいな、世界へ。広宣流布の旅に」「君の本当の舞台は世界だよ」「世界へ征くんだ」と――。

旅立ちの日を10月2日に決めたのは、2日が戸田先生の月命日にあたるからでした（祥月命日は4月2日）。

5 枚目／ハワイへの第一歩（4枚目の絵の裏に貼る）

最初の訪問地であるアメリカのハワイには、健気に信心を続けてきた日本からの移住者や日系人など、少ないながらも学会員がいました。池田先生はそんな一人ひとりを全力で励まし、信心の楔を打ち込んでいきました。世界広宣流布という壮大な目標から見ると、きわめて地道な戦いではありましたが、“一人の蘇生なくして世界広布の実現はない”との信念がそこにはあったのです。

6 枚目／アメリカの「三指針」（5枚目の絵の裏に貼る）

各地で渾身の指導を続ける池田先生は、アメリカの学会員に対して3つの指針を示します。それは、「1.市民権を取り、よきアメリカ市民となること 2.自動車の運転免許を取ること 3.英語をマスターすること」の3点でした。これは、一人ひとりがそれぞれの使命を自覚し、よき市民としてしっかりと地域に根を張っていくことこそが、広宣流布につながっていくのだという、深い考えに基づくものだったのです。この指針は、当時のアメリカの同志の、誓いの「三指針」となり、勇気の源泉となっていきました。

7 枚目／渾身の力で同志のもとへ（6枚目の絵の裏に貼る）

この初の海外訪問は、アメリカのハワイをスタートに、サンフランシスコ、シアトル、シカゴ、カナダのトロント、アメリカのニューヨーク、ワシントン、ブラジルのサンパウロ、そして再びアメリカのロサンゼルスというように、3カ国9都市を24日間（同月25日帰国）でまわるという強行軍でした。池田先生は、連日の激務による高熱に襲われながらも、目の前の同志を全力で励ましていきました。

初の海外訪問の際の心情を、池田先生はこう語っています。「旅の間、ともかく題目を唱え続けた。飛行機でも、車でも、街を歩いていても。妙法の種を、この国の大地に植えつけ、しみ込ませるのだという決心だった」

8枚目／^{あた}ら^{かい}たく^{ちか}を^せかい^{へい}わ^ひを^{ちか}誓^う「世界平和の日」 (7枚目の絵の裏に貼る)

「^{あた}ら^{かい}たく^{こん}なん^ろう^くと^{とも}な^とう^{ぜん}は^つぬ^ほのお^はき^とう^{そう}である／それを^つぬ^き抜^ける^ほのお^はき^とう^{そう}の^はき^とう^{そう}のような^はき^とう^{そう}の^はき^とう^{そう}によってのみ、^{こう}ふ^{かい}たく^はな^され^るの^だ」 (小説『新・人間革命』第一巻「錦秋」の章)

この^いけ^だせん^{せい}の^{こと}ば^はの^とお^り、^{いの}ち^けず^を削^るよ^うな^げき^とう^によ^って、^せかい^{こう}ふ^への^{だい}どう^がひ^らか^れ、^げん^ざい^のSGIの^{だい}は^つて^んへ^とつ^なが^って^いっ^たの^です。^わた^しち^も、^それ^ぞれ^の^とう^と^しめ^い^を胸^に、^せかい^にひ^ろがる^{SGI}の^とも^と「新しき開拓」の^みち^を明^らか^に進^んで^いき^まし^よう。

決意など